



生物多様性及生態系サービスに関する 地球規模評価報告書・政策決定者向け要約が公開

～ 国際評価書における CEReS 教員の貢献 ～

生物多様性及び生態系サービスに関する政府間科学-政策プラットフォーム (Intergovernmental science-policy Platform on Biodiversity and Ecosystem Services ; 略して IPBES-“イッベス”と呼ばれています) は、生物多様性を含む様々な自然の状況が現在どのような状況にあり、今後どのような政策オプションがあり得るか、ということ、現存する様々な学術成果 (学術論文) に基づき客観的に評価した国際報告書です。似た組織として、IPCC (気候変動に関する政府間パネル) がありますが、IPCC では気候変動を扱うのに対し、IPBES では生物(自然)を主題に扱います。IPBES の評価報告書には、もちろん、気候変動が生態系に及ぼす影響や生態系が温室効果の吸収排出に及ぼす影響など IPCC に関わる部分も記載されています。IPBES は IPCC の生物多様性版であると表現する方もいます。

この報告書は、50ヶ国 145名の研究者が集まって既存の研究成果を収集するという形で執筆されました。執筆者の主観に依存しないような最大限の努力も行い、例えば、引用される論文は“システマティックレビュー”と呼ばれる客観的な方法により選ばれた学術研究論文に基づいています。さらに、リリース前には2回の外部レビュー (誰でも参加可能) が実施されています。今回の報告書の特徴としては、参加政府の承認がされた報告書であるということも大きな点です。これらの評価報告書は、今後の生物多様性及生態系の保護に関する国際政策に利用されると期待されています。

筆者 (市井) は、2016年秋より、地球規模評価報告書(Global Assessment)の執筆に参加しており、2017年4月からは、統括責任執筆者(CLA)という立場で、第2章について、評価報告書の執筆と執筆者を取りまとめる役割を担ってきました。私の専門は、様々な生物 (主に植物) がグローバルスケールでどこでどのように変化してきたかを衛星リモートセンシングによるモニタリングで把握することを専門の一つとしてきました。衛星リモートセンシングでは巨視的なスケールで陸域や水域の植物をモニタリングするのに適しており、生物 (自然) の広域把握には最適な手法です。その観点で専門として、本執筆活動に参加しました。筆者は、今回の会合 (IPBES 第7回総会) は都合により欠席をしましたが、無事に地球規模評価報告書が130を超える加盟国で審議・採択されまして、5月上旬に公開されました (<https://www.ipbes.net/>)。

ゴールデンウィークのまきにおわりに、“100万種が絶滅の危機に!” というような見だして、ニュ



写真1. IPBES 第7回総会の一場面
(パリにて、2019年4月29日～5月4日開催)

ース・ラジオ・Web ニュースなどで取り上げられるほど、本報告書は科学的・政策的にも注目を集めているようです。筆者は、5月14日（水）に環境省主催のIPBES 第7回総会報告会において、地球規模評価報告書に関する概要の説明を多くの来訪者の前で説明してきました、一部は、メディアでも取り上げていただきました（詳しくは、市井研究室 Web 参照; <http://ichiilab.weebly.com>）。

これまで執筆作業に関わってきましたが、ここから、この報告書をどのように政策側の方々に生かして頂くのか、というところが今後の重要な点になるかと思えます。同時に、本報告書の内容を様々な方々に伝えることにより本報告書で扱う生物に関連した地球環境問題についても、アウトリーチ活動を通して、多くの方に知って頂くことも重要なことと考えております。



写真 2. 執筆者会合（2017年9月ケープタウンにて）

（市井和仁）

CEReS インターネット利用セキュリティ研修会を開催

学生を含むすべてのCEReS構成員を対象としたインターネット利用セキュリティ研修会を2019年5月22日午後に実施しました。この研修会は部局毎での実施が義務付けられており、留学生が多い部局であることを鑑み、数年前から日本語、英語、中国語の3ヶ国語での研修を行ってきています。2019年は例年の注意喚起事項に加え、Windows 7 サポート切れ問題、CentOS 6 の移行、フィッシング詐欺やSNSに不用意な情報をあげないことも注意喚起として研修内容に加えられました。毎年同じようなことを説明していますが効果は確実に現れており、部局内インシデントは確実に減少しています。今後、この調子で今年度はインシデントゼロで行きたいところです。



日本語版（豊嶋特任研究員）



中国語版（楊特任助教）



英語版（ノフェル特任助教）

（文責：部局 C-CERT 担当 樋口）

大学院融合理工学府地球環境科学専攻リモートセンシングコース 2019年度オープンラボを開催

5月11日（土）の13時より、共同棟102講義室にて、令和元年度の大学院融合理工学府地球科学専攻リモートセンシングコースのオープンラボ（コース説明会および研究室紹介）を開催しました。オープンラボは本コースの博士前期課程・後期課程の進学を検討している学内・学外の学部生・院生および社会人が対象です。今年度は、学内外合わせて20名の参加者がありました。オープンラボは、前半は募集要項の内容に沿った入試に関する説明、後半は各研究室5分程度の研究内容の説明を行い、その後、参加者は適宜、各研究室の研究紹介ポスターが展示してある会議室に移動して、個別に教員や研究員・学生と話をするという形式で実施しました。各研究室のポスターの前で、参加者が研究内容について説明を受け、教員らに熱心に質問をしていた姿が印象的でした。今年度の大学院入試は8月16日（前期課程）、21日（後期課程）に実施予定ですが、一人でも多くの熱意を持った学生が受験してくれることを期待しています。



オープンラボの様子（102講義室にて）

（齋藤尚子）

米国研究者による CEReS セミナーの紹介

< 第3回 CEReS セミナー ILAMB ソフトウェアチュートリアル >

JpGU (Japan Geoscience Union) が開催中の 2019 年 5 月 27 日(月)、JpGU の会場である幕張メッセにおいて、ILAMB ソフトウェアチュートリアルを実施しました。ILAMB とは、International Land Model Benchmarking (ILAMB)の略で、米国のオークリッジ国立研究所の研究者を中心に開発が進んでいる、陸面における熱・水・物質循環モデルを評価するプロジェクトの名称です。ILAMB プロジェクトなどと呼ばれています。このプロジェクトからは、Python をベースにしたモデル評価のための様々なモジュールが用意されており、モデルを様々な評価基準で評価できるツールです。これらのソフトウェアは Web 上から誰でも入手することが可能です。[\(https://www.ilamb.org/\)](https://www.ilamb.org/)

講師は、ILAMB 開発グループを率いる Forrest Hoffman 博士と、Nathan Collier 博士に務めて頂きました。本チュートリアルでは、ILAMB の特徴の一つは、観測データを使って様々なモデルを多面的に評価できることです。また、現在収集が進められる CMIP-6 (Climate Model Intercomparison Project

free! (2019 JpGU participants and non JpGU participants)
CHIBA UNIVERSITY

ILAMB SOFTWARE TUTORIAL SESSION

(International Land Model Benchmarking)

Monday 27 May, 2019
14:00 - 17:30

Room 202, International Conference Hall,
Makuhari Messe, Chiba, Japan
(JpGU2019 conference venue, wi-fi connection equipped)

How to Participate:
Please send an email to ichi@chiba-u.jp including
☑ Name of participants and affiliation
☑ Any request

Co-sponsors

Required
to bring your laptop
for installing the software
on Python-enabled systems
(with netCDF, numpy, and
basemap modules)

Recommended
Knowledge of Python,
netCDF files, and
the Climate & Forecast
convention (not required)

Forrest HOFFMAN
Oak Ridge National Laboratory, USA

Nathan COLLIER
Oak Ridge National Laboratory, USA

Tutorial Organizer: Kazuhito ICHI (Chiba University, ichi@chiba-u.jp)

6)のモデル結果については、ダウンロードし環境を整えるだけで様々なモデル評価の図を作成できるとのことでした。

今回は CEReS 構成員のみでなく、興味がある方はどなたでも参加できるようにしました。参加者は、博士修了後の研究者、大学院生、学部4年生など、15名を超える方にお越し頂き、皆さま、夕方までソフトウェアと格闘していました。

(市井和仁)



JpGU2019 連合大会での CEReS ブース(大学パネル)出展の報告

2019年5月26～30日に幕張メッセ（千葉市）で開催された日本地球惑星科学連合（JpGU）2019年大会において、昨年に引き続き、今年も CEReS ブース(大学パネル)を出展しました。今年、CEReSの教員で構成されているリモートセンシングコースへの今後5年間の大学院進学（対象：現高校生から大学生）を促進することを主目的としました。昨年の経験から、スタンプラリーが対象者と話す機会として非常に有効そうなることが分かったので、今年はスタンプラリーに参加しました。特に大会初日は大盛況でした。大会初日は日曜日で、パブリックセッションだけでなく高校生セッションもあり、広く、中学生から大学生まで、多くの方々が CEReS ブースを訪れて下さいました。今回新たに作成した CEReS スタンプの評価も上々だったように感じました。訪問者には、コースのパンフレット、CEReS ステッカー、CEReS ペンをプレゼントするとともに、これまた今回新たに導入したディスプレイ展示システムで各研究室の活動を動画で紹介し、CEReSの活動を広く宣伝できたように思いました。改めまして、ブースにお越し下さった方々にお礼申し上げます。また、ブースの準備では、特に、特任研究員の豊嶋氏にご協力いただきました（写真）。この場をお借りし、お礼申し上げます。ありがとうございました。

(入江仁士)



写真 (左上) 今回新たに導入したディスプレイ展示システムと豊嶋氏。(右上) CEReS ステッカー。(左下) CEReS スタンプ (リモセンらしく(!)、各 RGB につき1つ作製)。(右下) CEReS ペン。